

22) 最後の高等学校

On the Last Higher School

浜松市 水川秀海

Hidemi Mizukawa, Hamamatsu City

GHQ, PHW のチーフになったサムス大佐は野心的な改革を次々と断行し、それは医学・歯科医学の教育の分野にまで及んだ。

PHW の教育改革の基本的考えは、教育刷新委員会第 18 総会（1947 年 1 月 10 日）における文部省学校教育局長日高第四郎氏の報告により知ることができる。要約すると「日本の医学はレベルが低い、これは単に医学の技術教育が十分でないばかりでなく、人間としての一般教育がたりないからである。日本の医療行政について PHW が管理し改革するうえでその根源にある教育にメスを入れざるを得ない。人命を取り扱う医学教育は早急にレベルを高めなければならない。経過規定の中の不完全さを忍ぶわけにはいかない。大学と専門学校の二重構造をなくし、すべての医学校を標準的レベルに引きあげる。専門学校のうち標準を満足するものは大学に昇格して差支えない。その能力のないものは一般教養を与える大学級の学校になることも可能である」というものであった。サムスはこの基本的考えを実行するにあたり 1910 年の米国の医療改革（フレクスナー改革）に倣うことにした。これによって、医専、歯科医専は大学昇格か廃校かということになった。医学教育審議会と歯科教育審議会が発足し、標準的レベルの審議が行われる一方、全国の医専、歯科医専の視察調査（医科はジョンソン大佐とモルトン大佐、歯科はリッジレー中佐担当）が行われランク付の結果廃校の処置がとられる学校が出現した。医科の場合は即廃校で在校生は存続する他の学校に転学するか、又は特設高校（特別に設置される旧制高等学校）に入学することになった。歯科の学生はそのまゝ在学することができ卒業後国家試験を受験することができる。また特設高校を設けて、将来の医科・歯科大学進学希望者を募集することもできることになった。これ等一連の処置は GHQ が間接統治を原則としたため、表面上は文部省等日本側が中心になって行ったが、その背後

に GHQ の強大な力があり、戦時軍部の要請に答えて急設された医専の他女子医専、女子歯科医専が標的にされたという。

かくて全国に 7 校（官立：徳島、長崎、公立：山梨、福岡、秋田、私立：東洋、日本）の特設高校が誕生した。1947 年 4 月施行の学校教育法によって高等学校令はすでに過去のものとなっていたが学校教育法 98 条第 2 項従前の学校は、文部大臣の定めるところにより従前の規定による他の学校になることができるの適用により文部省令によって旧制の高等学校令による高等学校として設置された。

高等学校令は学校教育法の公布直前の 1947 年 2 月に改正され「男子」の 2 文字が削除されていたのでこの学校は女子の入学が可能であった。特設校は校舎以外の設備は不要であったという。事実秋田魁新聞の報道によれば秋田高校は秋田高女（現秋田北高）に間借して開校している。また文部省令によると、高等学校教員規定にかゝらず従前の学校の教員はこの学校の教員になれた。要するに設立に資金は不要で、総山孝雄氏は東洋女子歯科医専時代の回想文の中で東洋高校は学校経営にプラスしたと述べている。

東洋高等学校は東洋女子歯科医専内（千葉県津田沼町大久保）に 1947 年 7 月設立、8 月入試、教員 14 名学生 73 名（内女子 9 名）で開校した。卒業生は 69 名（女子 9 名）であった。日本高等学校は日本女子歯科医専内（東京都大田区北千束町）に 1947 年 7 月設立、9 月生徒 44 名（女子 9 名）で開校した。県立福岡高等学校は九州医学歯学専門学校医科（福岡県戸畑市弘文町）に 1947 年 5 月設立、教員 10 名、学生数 147 名（男子のみ）で開校した。

特設高校の内、官立の 2 校（徳島、長崎）はそれぞれ設立された新制大学（徳島、長崎）に統合されたが他の学校は新制大学に昇格改組されることもその働きかけもなく自然消滅の形でわずか二

年数カ月の命であった。卒業生は一期生のみである。秋田高校は二期生が入学、授業も行われたが学校は廃校となり二期生は卒業することが出来ず散り散りとなったという。戦後教育界の混乱を象徴する事件であった。

特設高校も既設高校も学制改革により 1950 年に消滅したが、九州歯科大学 50 年史によると福岡

高校の廃校は 1951 年である。最後の旧制高校であった。特設高校生はきびしい環境の中で勉学に励み、医・歯学部を目指した。旧制高等学校の歴史の掉尾を飾るものであったと認識している。特設高校の史料はきわめて少なく今後の調査研究が必要であろう。